

「続・わかりやすいパターン認識」正誤表（第1刷）

頁	箇所	修正前	修正後
15	式 (1.37) とその 6 行下	0.704	0.70
17	最初の行	もたないとする（三つの扉を公平に扱う）.	もたず（三つの扉を公平に扱う）, このことはゲストも知っている .
33	最後の行	表 ( $H$ ) が出た以外は全て裏 ( $T$ ) であったことを示している .	裏 ( $T$ ) が出た以外は全て表 ( $H$ ) であったことを示している .
45	図 3.3	$n = 10$	$n = 100$
47	演習問題の直前	観測回数 $n$ の増大とともに, ベイズ誤り確率が減少する様子が図 3.4 に示されている .	観測回数 $n$ の増大とともに, ベイズ誤り確率が減少する様子が図 3.4 に示されている . 観測を行う前, すなわち $n = 0$ の時点では, コインは事前確率が最大の $\omega_3$ と判定される . このときのベイズ誤り確率は $e_B = 1 - \pi_3 = 0.5$ であり, このことが図 3.4 でも確かめられる .
48	図 3.4		
59	下から 8 行目	$Be(15, 15)$	$Be(16, 16)$
114	図 6.1	$X, U, V$	$X, U, V$
117	図 6.2	$J(\theta') = G(\theta^0, \phi')$	$J(\theta^0) = G(\theta^0, \phi')$ その他、図中のスカラー表記 $\theta, \phi$ を、すべてベクトル表記 $\theta, \phi$ に修正
137	図 8.1	$\alpha_t(i)$	$\alpha_t(j)$
316	文献 [RJ93]	NTTアドバンステクノロジー株式会社(1967)	NTTアドバンステクノロジー株式会社(1995)

## その他の修正

- 大文字の  $X$  を小文字の  $x$  に修正 (図 2.1 , 5.1 , 8.4 , 8.5 , 9.8).
- スカラー表記の  $x$  をベクトル表記の  $\mathbf{x}$  に修正 (図 2.3 , 3.1 , 3.2 , 3.3 , 4.1 , 4.3 , 4.4 , 4.5 , 4.6 , 5.2 , A.1).
- スカラー表記の  $\theta$  をベクトル表記の  $\boldsymbol{\theta}$  に修正 (図 11.9 , 11.10 , 11.11 , 11.12 , 11.13 , A.7).
- 事前確率  $\pi_i$  の値に比例するよう, 輪郭線の太さを修正 (図 9.4 , 9.5 , 9.7 , 10.2 , 10.6 , 10.8 , 12.2).